

【Vol. 27】

今年もあとわずかです。

振り返ると、5月に日本で初めてヒアリが確認され、マスコミもこのことを大きく取り上げました。これ以降、アリに関する注目度が高まり、身近にいるアリを気にするようになった方もいるのではないのでしょうか。

今回は、そんなアリについて、大阪府立大学 助教上田昇平先生に教えていただきました！

アリはハチの仲間

アリは、ハチ目アリ科に属する昆虫で、世界で約1万3000種、日本で約300種が知られていません。

中生代白亜紀（約1億2500万年前）に起源し、スズメバチの祖先から分化したとされます。白亜紀とは、地質年代のひとつで約1億4500万年前から6600万年前にあたり、まだ恐竜が地球上を歩いていた時代です。このような時代にアリは生まれました。その証拠として、8000万年前（白亜紀）の地層からスズメバチとアリの中間の形態を持ったアケボノアリが発見されています。アケボノアリのグループはすでに絶滅しており、化石の中にしかみられません。

アリはハチの仲間であることがわかったと思いますが、実は、現在でも、ハチのように毒針をもっているアリがたくさん存在しています。その中でもヒアリ（火蟻）類の被害は有名です。ヒアリに人間が刺された場合、その名の通り火傷のような痛みを伴い、アルカロイド系の猛毒の影響から、アナフィラキシーショックで死に至る場合もあります。南米を原産地とするヒアリですが、世界的に分布を広げていて、台湾や中国にも定着してしまいました。

2017年5月、このアリが日本で初めて確認されましたが、2017年12月の時点で、国内に成熟したコロニーは発見されていません。日本に定着してしまわないように警戒する必要があります。

アリがハチの仲間だったとは驚きです！

今後も定期的に生物多様性に関するコラムを配信していきます！

メルマガのバックナンバーが気になる方は、
<http://www.sakai-ikimono.jp/mailmagazine>
をご覧ください。